日本豆乳協会
Japan Soymilk Association

NEWS RELEASE

2021 年 8 月 10 日
日本豆乳協会
SOY2109

日本豆乳協会

2021 年 4-6 月期における豆乳類の生産量が 107,445 kℓを達成

～　調製豆乳は、ほぼ前年並みに回復、外食需要の復活基調等により、
全体では 95.7%に　～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町　会長：藤村公苗　キッコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷智博、以下豆乳協会）では、2021 年 4-6 月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は 107,445 kℓとなり、前年同期比で、95.7%となりました。

豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しています。豆乳類を分類別に見ると、「豆乳（無調整）」の生産量は 30,510 kℓ（92.5%）、生産量が最も多い「調製豆乳」は、52,577kℓ（98.6%）、「果汁入り豆乳飲料」は、4,834 kℓ（96.1%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、15,445 kℓ（91.0%）となりました。一方で、主に業務用として生産している「その他」に分類される豆乳においては、4,078 kℓ（105.6%）と、回復基調にあります。昨年の 4-6 月期においては、新型コロナウィルスの影響により、在宅勤務や学校の休校も増え、さらには、ゴールデンウィークも自宅で過ごす家庭が大幅に増えたことから巣ごもり需要で、生産量が増加傾向にありました。今期は、巣ごもり需要が減少し、前年と比較すると、外食機会の微増と加工用原料としての業務用豆乳の生産量が回復傾向を示しています。

豆乳協会が集計分析している生産量調査では、生活者が豆乳の特長や成分の優位性に触れる機会が増えたことが後押しとなり、2018 年以降、「豆乳（無調整）」や「調製豆乳」などの豆乳愛飲者のリピート購入が増えています。しかし、新型コロナウィルスの影響を受け、“巣ごもり需要”が一時的に拡大したものの、2021 年になり、その需要が微減し、生産量の成長にも影響を受けました。今後も、生活者への飲み方、食べ方、料理などの提案を続け、豆乳を愛飲する習慣を浸透させてく活動を展開していきます。

豆乳協会では、2020 年代には、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を 4ℓに増加させ（2015 年 2.4ℓ / 総人口 12,700 万人）、年間総生産量を 50 万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。1983 年 4 月に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年 10 月 12 日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会　広報担当

㈱VA インターナショナル
田中/岩野

TEL:03-3499-0016　FAX:03-3499-0017